



## 突然のカマキリの孵化

先週金曜日のスナックタイム、2-1の子どもたちが妙に騒いでいるので、話を聞くと、

「先生、カマキリが生まれてます！」

と教えてくれました。

通常、カマキリの卵は6月ごろに孵化するのですが、植物のそば（日当たりのいい温かいところ）にずっとおいておいたのが原因だと思います。

調べてみると、25度以上を14～30日程度で孵化するそうなので、冬休み明けから条件を満たしてしまったようです。



【体長は8mmほど、かわいいです】

教室のカーテンの裏や上の方をたくさんの子カマキリたちが歩き回っていて、それを子どもたちが一生懸命探す姿は微笑ましかったのですが、この先のことを考えると頭が重くなりました。

外に逃がしても死んでしまうし、教室で飼うのも難しいです。

子どもたちは、しきりに「飼いたい！」と言っていますが、この時期だとエサがないので難しいのです。

通常はアブラムシが密集した草を見つけて、それごと放り込みますが、アブラムシの発生はまだまだ先（3月～4月ごろ）で、このままだと全滅するまで共食いしてしまいます。

飼うかどうか悩みましたが、なんとかエサを手に入れて飼育しようと思えました。

冬は生き物が少なくてつまらないので、私も子どもたちも、春までのいい気分転換になるかもしれません。

もしカマキリの飼育に興味がある方は、ご連絡いただければ何匹かお分けできます。

幼虫から成虫まで育てるのは、とても難しく私も成功したことがありませんが、ある小学3年生の子が自由研究でそれに挑戦し、その取り組みをまとめてくれています。

(2015年の自然観察コンクールという大会で文部科学大臣賞を受賞しています↓)

<https://www.shizecon.net/award/detail.html?id=373>

小学3年生ながらも、観察・記録と実験・考察がしっかりとできていて、感心します。

ヨーグルトで水分と栄養を同時に補給しようとする部分や、どんなエサだと食いつくか実験して確かめようとする部分は、とても勉強になりました。

非常に探究的な取り組みですので、こちらの自由研究だけでも見ていただけると幸いです。



【写真の中にたくさんカマキリがいます。全部見つけられたら(もしほしければ・・・)カマキリもらます!】